

# アオハダトンボ



鳥取県指定準絶滅危惧種  
朝金にて

(撮影：桐原佳介)

見事なハートマーク。まさに愛を育んでいる真つ最中のアオハダトンボです。こんなトンボならあちこちで飛んでいるのに、なんで絶滅危惧種なの？と思われる方もいらつしやるのではないでしょう

か。  
南部町には翅の黒いカワトンボが2種類います。一つは、ハグロトンボ、もう一つがこのアオハダトンボです。ハグロトンボは普通に見られますが、アオハダトンボは意識して探さないとなかなか出会えないトンボです。中国地方全ての県で絶滅危惧種に指定されています。

私たち夫婦が長く住んでいた関東地方では、この黒い翅のトンボは殆どお目にかかることはありませんでした。それが、この町にはごく当たり前に初夏から盛夏にかけて発生していることに、大変驚きました。

カワトンボの仲間が命をつないでいくには、卵を産みつけるための水草が必要です。町内の水路や川には、在来種のエビモやヤナギモ、外来種のコカナダモなどの水

草がよく見られます。川が汚れると水草は育ちません。川の生き物の賑わいを水草が支えていると言つてもいいでしょう。黒いカワトンボたちが飛び交う姿は、川の豊かさを物語っています。

ところで、このアオハダトンボとハグロトンボは、とてもよく似ています。アオハダトンボは名前の通り、黒い翅に光が当たると青緑の金属光沢が見られます。そして、メスは翅の先端付近に白い小さな紋がついています。一方、ハグロトンボは光沢がなく、オスにもメスにも白い紋はありません。見られる時期も少しずつずれていて、5月中旬頃から6月はアオハダトンボが多く見られ、7月以降になるとハグロトンボが多いです。

この夏、黒いトンボを見かけたら、「あなたはどっち？」と調べてみませんか？



そっくりなハグロトンボ

自然観察指導員 桐原真希